

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】教職概論（幼・小）		
担当者(Instructors)	山本 かほる	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択
実務家教員科目(Pro teacher course)			

■授業の目的と概要(Course purpose/outline) 公教育における教職の社会的意義と教員の職業的特徴を理解するとともに、教職観の変遷を知り、今日の教員に求められる資質能力について、学校現場の事例を多く取り上げて考察する。教員の職務全体を把握し、教員研修の意義と生涯にわたって学び続ける姿勢の重要性に気づく。また、学校内外の専門家や諸機関と連携してチームとして組織的に取組むことの大切さについても学ぶ。
--

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式で行うが、テーマに応じてグループワークやディスカッションも随時取り入れる。毎回課題プリントや小レポートに取り組み、テーマについての理解を深める
当該科目と実務との関係(Relationship between course and practice)	教育委員会で教育施策の立案・推進に携わり、各校校長を指導してきた実務経験、小学校校長として学校運営に携わり教職員を指導してきた実務経験、初任者研修指導教員として教員に求められる資質・能力について研究し若手教員育成に携わってきた実務経験を活かし、教職の社会的意義や職業的特徴・教職観とその時代による変遷・学校組織などについて、多くの具体的な事例を通して学べるようにする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	教職の魅力とやりがい 現代社会と教師の現状～1980年代以降の教育問題	教職への想いを語り合い、学習へのモチベーションを高める。講師が学校現場で過ごした1980年代以降の教育をめぐる動きをたどり、現代の状況に至った経緯を知る。	☐
第2回	教師の仕事と役割（1） 教師の1日・1週間・1年・夏休み	生徒の立場でしか知らなかった教師の仕事を「職業」として見直し、教職の実際を知る。	☐
第3回	教師の仕事と役割（2） 学校はブラック職場か？～教員の身分・勤務条件	「学校はブラック職場」という言説の真偽を、教師の身分や勤務条件など、多角的な視点から検証する。	☐
第4回	教師の仕事と役割（3） 学校はブラック職場か？～学校の働き方改革の現状	「学校はブラック職場」という言説の真偽を、長時間労働や働き方改革、メンタルヘルスなど、さらに多角的な視点から検証する。	☐
第5回	教師の歴史と諸外国の教師	いわゆる「聖職論」をめぐる論争の歴史的経緯と、諸外国の教師像との比較から、我が国の教師像について考える。	☐
第6回	教師教育制度（1） 教員養成・現場体験・教員採用試験・初任者研修	大学での教員養成から初任者研修に至るまでの制度・内容について学び、新任教師の奮闘・成長の事例を通して、教職の魅力について知る。	☐
第7回	教師教育制度（2） 教職経験者研修・現職教育・免許更新講習・自主研修	教師とは、資質・能力の不断の向上が必要な専門職であることを理解し、そのための様々な研修の種類と内容について知る。	☐
第8回	教師と生徒の関係	いわゆる「ブラック校則」に象徴されるように、価値観の多様化、教師の権威低下という時勢の中で、教師が指導し生徒がそれに従う、という関係性について、改めて考える。	☐
第9回	教師の資質・能力（1） 教師力とは何か	いわゆる「教師力」の具体について多角的に考察する。また、経験年数によって求められる「教師力」がどう変わっていくか、教員養成指標を通して整理する。	☐
第10回	教師の資質・能力（2） 授業力とは何か	「教師力」の中核をなす「授業力」の具体について多角的に考察し、授業力を磨くためにはどうしたら良いかを考える。	☐
第11回	専門職としての教師（1） いじめと不登校 キレル子どもたち	いじめや不登校、支援を要する子どもなど、教師の誰もが必ず直面する問題の事例を取り上げ、専門職としての対応と課題について考える。	☐

第12回	専門職としての教師（２） 保護者・地域・社会と教師	いわゆる「モンスターペアレント」などの事例を通して、学校教育を円滑に進めるために不可欠な保護者・地域・社会との連携について考察し、専門職としての対応と課題について考える。	☐
第13回	教育評価の課題	誰もが経験してきたテストや通知表を想起し、教師が生徒を評価することの意味を再考する。また、２０００年代になって導入された学校評価・教員評価について、その背景と実情・課題について知る。	☐
第14回	教師が育つ環境とライフステージ	同僚性や協働の中で「出会いと別れ」を繰り返しながら、転任・昇任や研修・経験を重ね、教師として人間として成長していく生涯の姿を追う。	☐
第15回	教育の今日的課題とこれからの教師像	グローバル化やAIによる社会の変革を見据えた新学習指導要領における学力観や、教育の今日的課題を踏まえ、これからの教師像を考える。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
事前にインターネット等でテーマについての予習をし（２時間程度）、事後に授業内容や配布資料をもとに講義記録（記録用紙は毎回テーマに合わせて配布）を整理したり、課題プリント・小レポートに取り組んだりして復習する（２時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
課題プリントや小レポート、講義記録の記述の中で、考察を深めるきっかけとなるものを、次回授業で紹介する

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	教職に関する基礎知識を習得し、説明することができるか
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	現代の教師が置かれている状況や、今日的な教育課題について自分なりの考えをもち、表現することができるか
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	グループワークやディスカッションで積極的に発言し、互いの考えを深め合う上で貢献することができるか

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
		40%	20%	40%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 毎回の課題プリントや小レポート、講義記録				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて資料を配付する	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		